

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

木材乾燥における木質バイオマスボイラの導入

排出削減事業者名：佐伯広域森林組合

排出削減事業共同実施者名：（株）イースクエア

その他関連事業者名：

排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	佐伯広域森林組合
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	佐伯広域森林組合
住所	大分県佐伯市宇目大字南田原 14 番地-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	株式会社イースクエア
その他関連事業者（注3）（複数の関連事業者がいる場合、行を挿入し全ての関連事業者を記載すること）	
関連事業者名	

1 排出削減活動の概要

1.1 排出削減事業の名称

木材乾燥における木質バイオマスボイラの導入

1.2 排出削減事業の目的

木材乾燥用の木質バイオマスボイラを更新し、化石燃料ボイラを導入する際に想定される CO₂ 排出量を削減する。

1.3 温室効果ガス排出量の削減方法

バイオマスボイラの更新により、化石燃料ボイラを導入する際に想定される CO₂ の排出削減を行う。

1.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

1.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし

2 排出削減活動期間

2.1 プロジェクト開始日

2009年4月1日

2.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2014年4月1日 ～2014年9月30日

3 温室効果ガス排出削減量

3.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

3.2 活動量

3.2.1 活動量・原単位

3.2.2 活動量の採用根拠

なし

3.3 事業の範囲 (バウンダリー)

本プロジェクトの範囲はバークの燃料化のための破砕とバイオマスボイラ及びそれを利用する木材乾燥施設である。

4 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
HE_{Pj}	事業実施後ボイラーの生成熱量	GJ	25,155.2	作業日報 (ボイラ給水量・ボイラ給水温度・缶蒸気圧、ボイラブロー量)	—
EM_{Pj}	粉砕機の稼働時間	h	1,112	作業日報 (破砕機運転時間)	—
ϵ_{BL}	ベースラインのボイラー効率	%	80.75	カタログ値 (高位)	—
$CF_{fuel, BL}$	ベースライン燃料 (A 重油) の単位発熱量あたりの CO2 排出係数	t-CO2/GJ	0.0693	デフォルト値より計算	—
$CF_{electricity}$	電力の CO2 排出係数	kg-CO2/kWh	0.487	デフォルト値より計算	—

5 排出削減量の計算

5.1 事業実施後排出量

本事業では、バイオマス燃料を使用し、バックアップ用の重油焚ボイラの稼動予定はなく事業実施後の排出量は0である。

活動量	CO2 排出量
EM _{PJ}	0.0tCO ₂

5.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
31,152.0GJ		0.0693	2,158.8tCO ₂
EM _{BL}			2,158.8tCO ₂

ベースラインエネルギー使用量は以下の式に表される。

$$\begin{aligned}
 Q_{\text{fuel,BL}} &= HE_{Pj} \div \varepsilon_{BL} \\
 &= 25,155.2[\text{GJ}] \div 80.75 [\%] \\
 &= 31,152.0[\text{GJ}]
 \end{aligned}$$

項目	定義	値	単位
$Q_{\text{fuel,BL}}$	ベースラインエネルギー使用量	31,152.0	GJ
HE_{Pj}	事業実施後ボイラーの生成熱量	25,155.2	GJ
ε_{BL}	ベースラインのボイラーの効率	80.75 (高位)	%

※ HE_{Pj} =蒸気量×(蒸気のエンタルピー - 給水エンタルピー)

また、ベースライン排出量は以下の通りである。

$$\begin{aligned}
 EM_{\text{BL,B}} &= Q_{\text{fuel,BL}} \times CF_{\text{fuel,BL}} \\
 &= 31,152 [\text{GJ}] \times 0.0693 [\text{tCO}_2/\text{GJ}] \\
 &= 2,158.8[\text{tCO}_2]
 \end{aligned}$$

項目	定義	値	単位
$EM_{\text{BL,B}}$	ベースライン排出量	2,158.8	tCO ₂
$Q_{\text{fuel,BL}}$	ベースラインエネルギー使用量	31,152	GJ
$CF_{\text{fuel,BL}}$	ベースライン燃料A 重油の単位発熱量あたり CO ₂ 排出係数	0.0693	tCO ₂ /GJ

5.3 リークージ排出量

バイオマスボイラの燃料は、原則、製材所内のバーク及び端材を使用している。バークについては破碎時に電力を使用しているが、本事業で温暖化ガス排出及び申請者が主張する排出削減量の 5%を超える顕著かつ計測可能なバウンダリー外での温暖化ガス排出は特定されない。

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0.0tCO2

5.4 温室効果ガス排出削減量

排出削減量は、以下の式に表わされる。

$$\begin{aligned}
 ER &= EM_{BL} - (EM_{Pj} + LE) \\
 &= 2,158.8[\text{t-CO}_2]
 \end{aligned}$$

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM_{BL}	2,158.8 tCO2
事業実施後排出量 (7.1)	EM_{Pj}	0.0 tCO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0.0 tCO2
温室効果ガス排出削減量	ER	2,158 tCO2

6 省エネルギー量

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。なお、上記の様式に代えて省エネ法定期報告のエネルギー種別の様式により報告することもできる。

※ 該当なし

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間（ 2014年 4月 1日 ～ 2014年 9月 30日）			
		エネルギー使用量※ （実績）	熱量換算（GJ） （実績）	原油換算(kl) （実績）
	単位			
バイオマス熱利用量	G J	25,155.2	25,155.2	649.0